

幼 兒 の 健 康 保 育 (四)

お茶の水女子大學助教授
愛育 研 究 所 員

平 井 信 義

視診のお話を続ける前に、間奏曲として、ゲゼル博士の論文を御紹介したいと思います。ゲゼル博士は、皆様も御承知の様に、エール大學の教授をしていた方で、小兒科醫でもあり心理學者でもあり、長い年月を子供の發達の研究に盡した方であります。

實はこの論文を原著で讀んだのではありません、前回の原稿を書き上げたあとで、私共の研究所長・齋藤文雄先生が、「古いものだが」といつて、小さなノートに書かれたその抄録を、私に貸して下さつたのです。時も時、私はこの講座のために原稿を書きながらも、いつも、健康保育を強調することが、保母さんの大きな負擔になりはしまいか、私の思いすぎになりはしまいかと内心恐れていたのです。處が一九二三年に書かれたゲゼル博士の論文は、この上なく私への激勵となつたのでした。私はこの抄録をむさぼり讀み、更にノートをしながら、恩師齋藤先生の御厚情を感謝し、且つ健康保育を促進する爲、百倍の勇氣を得たのであります。

ゲゼル博士は冒頭に於て、「健康管理所としての幼稚園」として、「幼稚園の先生は、健康増進を教育上の最高目標とすべきである」と云はれ、「先生が小兒衛生に對し熱烈な興味を持つことは、行政上の改革を早めることに役立つとまで云はれているのです。

「就學前の小兒は、最も大きい發育を示す時であり、發育は遺傳の力にもよるが、同時に保健條件、——食物、空氣、日光、遊び等が關係する。」「更に學童の身體的缺陷の多くは、幼稚園時代にその萌芽がみられる。」「公衆衛生の立場から見ても、就學前時代は基礎的豫防が實際に行われなければならない時。」「故に幼稚園は完全に公衆豫防衛生の施策に副うべきであり、健康教育及び實際の健康増進設備と活動が必要となる……………」

今から四分の一世紀前に、アメリカでゲゼル博士が唱えたことを、今こゝに私共が聲を荒げて叫ばなければならぬのは本當に惜けないこととありますが、聲を荒げることさえ控え

目に——と感ずる私には、この抄録は天與のものゝ様に思えたのであります。

この他、健康教育の具體的な方法が書かれてありますが、それらはこれから述べる色々な項目に現れて来る筈です。

聞奏曲はこゝで打切り、視診の項を続けましょう。

(五) 視診と病氣の早期發見(つゞき)

今回はふきでも、即ち發疹から述べることにします。

幼稚園や保育所ではしばしばぶつかかるのは、ハシカ(麻疹)でありましょう。鼻をたらし目をしよぼしよぼさせていた子供がお休みする、と間もなく家から「うちの子供はハシカになりました」と知らせて来る。「なんだ、ハシカだつたのか」と氣を許していたら大變、一週間もたゞぬ中に、「うちの子も」「うちの子も」と爆發してしまふのが特長であります。

凡そ子供の病氣の中で、これほど傳染力の強いものは他にありません。見ただけでうつる、すれ違つただけでうつる、——それ程であります。大きな室の隅と隅にいても、ハシカの子が風上にいれば、風下の子供はもらつてしまいます。

而も困つたことには、ハシカ特有の發疹が出る前、即ちクシヤミ、せき、鼻汁、めやにが開始した頃——まだハシカとすることがはつきりしない時に、既に傳染力が強いということとです。ですからハシカの第一日・第二日目には、子供はやつて來ることがしばしばで、この時はむしろ風邪氣味と思は

れるのが普通です。

前回繰返して述べた様に、「風邪氣味」というのは非常な曲者で、いろいろな傳染病の初期症狀であることは、このハシカの場合にも當筈まるのであります。ですから風邪氣味の子は常に慎重に隔離されなければならぬことは、よく判つていたゞけたことと思ひます。ハシカの他に、ジフテリア・百日咳・小兒麻痺・猩紅熱などなど。

クシヤミ・せき・鼻汁と共に大概は熱が出ます。間もなく目が赤くなり、目やにが出て、流行期ならばすぐにハシカかなと氣付くのですが、その様なカタル症狀が輕いと、發疹が現れるまで、氣付かずに過ぎてしまふことがあります。殊に近頃の様に豫防處置として血清が注射してあると、本當に輕くて済むことが多いのです。

保育所などで早目にハシカを見付ける方法を教へましょう。それは、子供の口をあけて、頬の内側で丁度臼齒に相當するところに、眞中が白く周圍の赤い小さな斑點を見付けること、之をコップリック氏斑と呼んでゐます。もとより之を見つけてあわてゝ隔離をしても遅いことが多いのですが、それにしても早く隔離すればする程、その災害を最小限度に止めることが出来るのであります。

ハシカの熱は、一どでた熱が四・五日で一たんだります。不注意な場合は、やれやれ矢張り風邪だつたか、と思つていと、その午後あたりから再び發熱し、こゝに初めて特有な發疹が出るのであります。先づ耳のうしろから、きれいな紅

色で、だんだん體の下部へと擴つていきます。そして大凡三日位で發疹は完全に出切つてしまひ、そのあとは暗赤色となり、少し宛色あせてゆきます。と同時に熱の方も下つてゆくのが大體の経過であります。

ですから、もし一人ハシカの子供が發生したならば、すぐに調査表を開いて、未だハシカの濟んでいない子供を畫抜きます。既にしている子供は、免疫體を持つていますから、二度かゝる心配はありません、但し風疹をしたのに、ハシカをしたと思ひ違えてゐる人がありますから、注意が必要です。兎に角、ハシカの濟んでいない子供には、早速血清注射をする様に通達しましょう。

幼稚園にハシカ（麻疹）の子供が出ました。一日も早く血清注射をしましょう。之をしておくとして軽くすみませう。早ければ早い程軽く済みます。血清注射とは麻疹をすませた人（お父さんでもお母さんでも）の血液を五〇cc以上取つて、それに操作を加え、一と晩氷室の中においておくと、血球と血清に別れます。その血清を翌日子供のお尻へ注射すればよいのです。血液は五〇瓦あればよいでしょう。

この様な通知は一例です。

ハシカの潜伏期間は大體十一日前後でありますから、この間に血清をすればよいのですが、早い程軽くすむのですから、通知も遅れてはなりません。

次に多いのは、水ぼうそう（水痘）でしょう。水ぼうそう

は、發疹が出てからでも、子供は幼稚園・保育所へやつて來ることがあります。いつになく元氣がなく、室の隅に坐つてゐるので、近寄つて顔に手を當てゝみると、熱っぽい。よく見ると顔にぼつぼつ發疹がある。洋服をぬがしてみると、體にも既にかなりの發疹がある、——この様なこともしばしば見受けられます。

まず顔に始まり、體から手足にひろがつてゆきますが、胸や背から始まる場合もあります。いづれにせよ、頭髮の中にまでぼつぼつ出るのが特長と云えましょう。

水ぼうそうの發疹の様子は、はじめはぼつんとして赤いふきでものでありますが、間もなくそれは水を持つた發疹となります。その水ぶくれも、引續いて眞中が凹み、枯れてそこにかさぶたが積ります。これが一つ一つの發疹の経過ですが一齊にこの経過を辿ることがなく、いろいろな形、即ち背中をみても、赤いぼつんとしたもの、水をもつたもの、かさぶたの出來てゐるものなどが見られます。「暗夜に星空を仰いだ様だ」といふ形容は併々適切であります。

熱がそう高くなく、一日位で早や平熱になる場合もあり、二・三日續くこともあります。一般に全身症狀が軽いのが特長です。従つて子供はぢきに幼稚園・保育所へ來たがり、かさぶたが澤山残つていても、ひよつこりあらわれることがあります。

かさぶたの残つてゐる間は、未だ感染させる危険があると云われていますから、すつかりとれる迄は、集團に入れては

なりません。

潜伏期は二週間前後であります。豫防の方法はありません。

序でに發疹のある病氣として猩紅熱について一言しておきましょう。この病氣は重い傳染病に數えられていきますから、發疹が出てから幼稚園・保育所にやつて来ることは先づ先づありません。急に熱が上り、まもなく四〇度にも達します。多くは吐きけや嘔吐で始まり、口をあけさせてみせますと、眞赤にはれています。そして間もなく發疹が現はれるのです。

發疹は首から胸・背中から腹と多くなりますが、顔には比較的おそく現はれます。初めは發疹のつぶつぶが見えますが次第にからだ全體がお酒に酔つたときの様にまつ赤となります。口のまわりだけ發疹しないので、白く見えるのも一つの特長でしょう。

この病氣はあとから皮がむけ、殊に皮の厚いところは大きくむけます。

今年はこの病氣の軽いものが非常に流行し、全身症状もあまり犯されないために、風疹やら、はしかの軽いのやら、殊に血清をしてあるとき、藥疹やら、見當のつかない場合が可成りました。手の皮などがむけ始めて、初めて輕症の猩紅熱だつたか、とわかつた例が可成澤山ありました。こうなつては醫者でも早期に診斷することはむづかしいのでありま

す。

猩紅熱は、以前は皮がすつかりむけ切る迄は傳染すると考へられていましたが、近頃はむけ切らなくとも、五・六週間の隔離でよいということになつていきます。

風疹も、大抵は發疹が現はれてからびつくりすることが多く、幼稚園や保育所にもやつて來ますから注意が必要です。軽いハシカの發疹とは見分けのつかぬ程ですから、ハシカと驚かされることしばしばです。はしかを二度やつた、という子供も、吟味すれば、度はこの風疹であることが少くないと思はれます。

この他、軽い病氣では藥疹・蕁麻疹、重い病氣では天然痘がありますが省略します。

とびひは、水ぼうそうに似て、水痘の出来る病氣ですが、之は純然たる皮膚病で、水痘の中の膿がついた場處々々に擴つてゆくものであります。全身症状は全くなく、夏季に多いのが特長ですし、一度に全身に出ることはなく、どこと決つた場處に出ることもなく、一つ出来た場處から擴つてゆきます。ですから、その子にとつても早く手當が必要ですし、他の子供も手をつないだり體に觸れることがあるとその膿をうけて、同様な水痘が出来始めます。隔離は必ずしなければなりません。殊に保育所ではしばしば經驗されますので、注意して下さい。

次にヘルペスについて簡単に述べましょう。之は保母さん方にも出来た經驗をお持ちの方があります。眉毛の上即

ち額とか、胸や腹、或いは唇などに小さな水痘が密集して出来て、それが痛むことがあります。間もなく乾燥して黒褐色のかさぶたになります。私共醫者が見て特有なのは、皮膚の神経に沿つて出来ることです。肋間神経に沿うと、肋骨と肋骨の間に胸から背にかけて帯をかけた様に出来ることがあります。そんなとき、多くは片側だけに出来ます。病原體はウイルスと考へられていますが、この水泡の水が他のものについたからといつて必ずしも傳染しない様で、個人差があると云われます。然し一應三・四日隔離した方がよいでしょう。子供は熱を出すこともありますが、全く平氣な顔をしてゐることも多いのです。先づ先づ心配はない病氣ですが、亜鉛華澱粉でもつけておけばよいでしょう。

次に「いぼ」と呼ばれる丸い玉で、體や顔にひよつこり表れ、次第にふえる病氣があります。ふつう赤くはならず、真中に凹みが出来て来て、この中から乳の様な液が出て、それがついた場處にバラバラと出来ます。體裁が悪いだけで、子供は痛みも痒みもありません。病原體は之もウイルスと考へられています。之が出来た子供にとつても、放つておけばふえますし、他の子供にもうつりますから、一つ出来たら早速醫者にゆき、中の白いかたまりをつぶし出して貰えば、忽ち癒ります。

以上で、幼稚園・保育所で經驗する發疹についてお話ししましたが、つけ加えておきたいのは「はたけ」「しらくも」た

むし」などの「人體につくかび」と「かいせん」の如く虫による皮膚病のお話です。

「はたけ」「しらくも」は、學童ではもう烈に多いが、三五年の幼兒にも、可成みられます。圓く灰白色で、まわりの皮膚からきわ立ち、その場處がくづの様にむけてゐる——そしてだんだん擴つてゆくのです。子供自身は何の苦痛もないが、幼稚園などのお母さんで、心配する人があります。勿論傳染病で、その源は表皮の下にはびこるカビであります。

隔離をする必要はないが、早目に手當をしてもらうことが大切ですが、癒すのに根氣があるので、ついつい面倒になり癒りにくい病氣となります。氣の長い話ですが、青年期になると、不思議に癒つてしまい、その代りに「いんきん」が出始めますが、薬としては、てい硫酸をたんねんにすり込むことです。

かいせんは指の股とか、手足の關節の凹みの方、或いは下腹部にぼつぼつと出来る發疹で、澤山出来るとかゆみがひどいのですが、搔くづして膿を持つてから氣付かれることもあります。之はダニの様な形をした小さな虫が、皮膚を喰ひ破つてトンネルを作り、卵を産みつけては数を増して、ゆくためです。診断はむづかしいから、かゆみの強い（子供ではかき傷が澤山ある）發疹が前述の場處に出来ていたら、醫者に見てもらふ様すゝめましょう。

但しその際「かいせんらしいから」などという「まあ失禮な」と怒つてしまうお母さんがありますから、はつきりい

わないで「うつる病氣だと困るから」「ひろがる病氣だといけないから」とやさしく言いましよう。かいせんには硫黄劑が効きます。

毛虱も少し分多い病氣です。女の子に多く、一人これを持つた子供がいると、次から次へ擴つてゆきますから、頭髮にも注意し、白い卵が見つつかつたら、家庭に知らせ、保育所では之の撲滅をはからなければなりません。ひどくなつて、頭中がじめじめしていたら、思い切つて毛を切り、坊主にする必要がありません。D・D・Tを一週間ふりかけ、卵からかへる虫を殺す他、卵の殻は酢で軟化させすき櫛ですいてやらなければなりません。その他、水銀軟膏を塗る方法もあります。

以上で皮膚の病氣について概観したわけですが、これだけでも少し分澤山の病氣があつて、試験でもされたら大變なことで、とお思ひでしようが、くどくど書いたからこんなことになつたので、少し子供について目を働かせ、経験すれば案外かんたんなものです。發疹については(一)大きさがどうか粉をふりまいた様なもの、大きいもの(二)發疹がお互にくつき合つているかどうか(三)水ぶくれかどうか(四)發疹の色はどうか(五)發疹のはじめた處と擴り方(六)かゆみがあるか痛がるか(七)かさぶたになるかどうか(八)あとで皮がむけるかどうか——こうしたことを注意していただいて、病氣の見分けがつかなければ、すぐに醫者に連絡して下さればよいのです。

新刊

幼稚園制度研究會編

幼稚園關係法令通達便覽
幼稚園一覽

推薦

大島文部省初等教育課長

幼兒教育の重要性が認められて、幼稚園關係者各位には園の運営や教員の身分資格等についての法令に關する深い知識と理解とが、缺くことのできないものとなつた。このときに本書が刊行されたことは、まことに時宜に適切したものであり、保育界に裨益することは、まことに大きいと思われ、本書の刊行を賛同いたし、その活用を期待す。

倉橋惣三氏

常に法令に通曉していなくてもよからう。しかし、事當つては必ず法令に基かなくてはならぬ。こゝに幼稚園法令集の必要がある。各幼稚園必備の書とは此書のことである。法令は新しく加わる。級込みの便行細則、施行細則、我が國が如何に深く廣き整備の上にあるかを、樂しく會得するであらう。

倉橋惣三氏 閣
日本幼稚園協會編

幼稚園お話集

フレーベル館發行 定價 上、下各二〇〇圓